

WORLD PEACE

世界を平和にさせて~なブル

発行者
嵩原 安彬
豊國 凌央

日本と国連



◎日本の分担金は?



2016年度

◎日本の国連の職員数は?

(2013年12月31日現在)



日本はアメリカに次ぐ最大拠出国である一方で他国と比べて職員数が少ないことは残念である。これからは人としての関わりも増やすことが必要だ。

特派員コラム

ニューヨーク国連本部より



この「日本の平和の鐘」は、1954年6月に日本から寄贈された。平和への願いをこめ世界60カ国の硬貨やメダルを鋳造して作られた。他にも「発射不能の銃」や「サボイの壁」や「黄金律」など平和へのメッセージをこめた各国からの美術品がたくさん並んでいた。NY国連本部は世界の国々からさまざまな芸術品がある。平和の美術館の顔ももっていた。(2017.7.取材)

世界にいまなにが起きているのか

- ★のどかがわいた → 水をのもう (安全な水がのめるのは全196か国のうちたった15か国)
- ★いろいろ知りたい → 学校へいこう (11人に1人は小学校へもいけず、戦地や難民の子の半数は学校をおきかえている)
- ★便利な生活 → 各地に工業化 (環境汚染で陸海空の生態系に影響)
- ★おなかへった → 飯たべよう (9人に1人は飢えに苦しむ、5秒に1人の子どもが死ぬ)
- ★CO2の排出が増えた → 気候変動 (気候がかわり、異常気象や海面上昇を引きおこし、自然災害がふえる)
- ★天然資源 → 石油やメタン (エネルギー資源には限りがあり、使うともうおとは産出できない)



サステナブル デベロップメントゴールズ = 持続可能な開発目標 =

ぼくたちが流しで紹介

- 1 貧困をなくそう
- 2 真面目な仕事
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

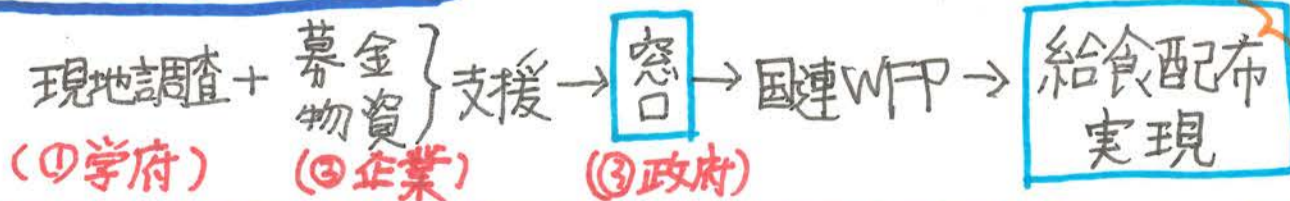
どう取り組むべきか

「より強い国連、より良い世界」を目指して SDGs とは貧困の解消を目標とした MDGs (2001~2015) に加え、地球保全と全世界の平和と豊かさをめざす、2016~2030間の国連の17個の目標

日本からのSDGS

- ① 学府 → 高い技術・豊富な知識で貢献
- ② 企業 → 資金やネットワーク・リサイクルで協賛
- ③ 政府 → 協力者の安全や環境をサポート

つながるとなにかができる?



ぼくたちと国連

~あとがき~

ぼくたちは今回、国連のことを調べていくうちに沢山のことも知った。例えば水道は、世界でたった7%のめった環境で使っていること、したおきますと言ったことにはふたつに5秒のうち1秒が子どもが食べない命を落とすこと、毎日あたりまへに通る学校は実は望みからといって必ず得られるものではない

なく経済や技術や物資や人がいることや、整ったところのこと。ぼくたちは当然前のことができてはいる場所が多々存在しているのが現実だ。それでは何をどうすればいいのか。誰かに任せればいいのか。いやそうではない。できることをさかせばいいのだ。例えば UNWFPの学校給食プログラムは小学生でも参加することが可能である。インターネットでサイトアクセス、コメントしたり、写真をのせたり

という簡単なことで協力企業からWFPに寄付が出来るというくみだの大人にから、とか、あとからゆっくり考えよう、などと後押しにせず、今できることをしようという姿勢が大切かもしれない。今回の調査を通して学んだ、まず知るということ、今からできることから関わりようとする、その2つの心がけが未来にみく世界にとって必要なことではないだろうか。